

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170101018), 法人名 (医療法人 愛全会), 事業所名 (グループホーム 舞), 所在地 (札幌市中央区南25条西13丁目1-22), 自己評価作成日 (令和5年3月22日), 評価結果市町村受理日 (令和5年7月10日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中央区にあり、都心からも近く、静かで環境もよく四季折々の景色も楽しめる事業所です。現在もコロナ対策は継続中です。町内会との関りもあり、神宮祭では事業所の前まで来てくださり、踊りを披露してくれます。コロナで外出はできないので室内で出来るレクリエーション等で季節感を味わって頂いています。ポランティアのドッグセラピーが再開され入居者の皆様の笑顔も増えて来ています。今後、少しずつ外出レクも計画しています。愛全会では研修も充実しており、研修を受ける事によって各自のケアの見直しや視野を広げる事に役立っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigyosvoCd=0170101018-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosvoCd=0170101018-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年6月16日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2003年11月に開設した事業所は2ユニットで、それぞれ9名の利用者が職員の手厚い支援の下、ゆったりとした生活空間の中で穏やかに暮らしている。最寄りのバス停からも近く、また、コンビニや食事処等がある住宅街に位置し、利便性に優れている。コロナ禍により地域との交流も相互に控えているが、3年振りの札幌まつりでは町内会の山車が立ち寄り、利用者は拍手で出迎えている。運営推進会議においても、地域関係者や包括職員から情報や面会、コロナ禍関連等への意見や励ましの言葉を得ており、良好な関係を維持している。面会も制約がある中、毎月各ユニット便りを発行し、日常の様子や行事での特別食、新職員の紹介、セラピー犬との触れ合い等を写真掲載で家族に届け、好評を得ている。さらさらユニットの目標は「穏やかで心地良い暮らしを支援します」、ふじのはなユニットは「笑顔のたえない場所を作るお手伝いを致します」を掲げ、職員は理念と共に実践に努めている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度、グループホーム事業のケア理念を新たに掲げ且つ舞でも理念に基づき新しい目標を作り、引き続き継続します。	法人理念を事業所の共通理念とし、さらに職員が話し合って策定したユニット目標を掲げ、それぞれをケアの礎としている。新人研修で理念の意義を説明し、月1度の会議で理念や目標の実践を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と定期的な情報交換を行っています。また、町内会のリサイクル活動にも協力しています。また地域から入居される方もいます。	コロナ禍の中でも資源物回収の協力や清掃活動の参加、介護相談には耳を傾けている。地域の運営推進委員からの情報提供や、札幌まつりでは事業所前に町内会の山車が立ち寄り、利用者は拍手をして出迎えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に運営推進会議を通じて、いつでも相談できることをお知らせしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回、運営推進会議を行なっている。地域の方々やご家族様に電話で意見などを頂いています。	会議は書面と対面で行われ、活動報告、感染症対策、事故報告等と推進委員からの意見や情報、質問等を議事録に載せ関係者に配布している。主な話題はコロナ禍関連が多く、共に感染症収束を願う言葉が出ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは法人のグループホーム事業室が報告・相談を行なっている。グループホームでは、市担当者に毎月利用状況の報告を行なっています。	行政とは法人と管理者が各々の案件に対して担当とやり取りを行い、運営の質向上に生かしている。コロナ禍関連については保健所から情報や助言、必要な物品が届いており、密な関係を築いている。運営推進委員である包括職員とは事業所の実態を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護や身体拘束に関する勉強会を毎年実施し事業所でも、全職員が参加出来るように回数を増やし共有認識を図っています。	法人全体で身体拘束や虐待をしないケアに取り組み、適正化委員会を設置している。委員会に出席した職員からの伝達や内部研修等で正しい理解に繋げ、さらに年2回、法人主催の自己チェックリストで職員の理解度を把握している。センサー使用時は、家族の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、事業所内で高齢者虐待防止法に関する研修会を開き、理解、浸透に努めている。法令遵守に向けた取り組みの研修も行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム事業所内で研修会があり、職員が学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約には、書面を見ながら口頭で説明し同意書にサインを貰っています。不安や疑問点がある時は都度説明を行い納得して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や、来訪時には意見、要望等を取り入れ反映させています。	面会や外出が自粛中でも、近所の桜見物やドッグセラピーでの和やかな様子、札幌まつりでは町内会の山車見物等の写真を掲載したユニット便りを家族に届け、さらに電話でも詳細を伝え、家族の安心に繋げている。3月から月1回の面会と外出が可能になっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務カンファレンスにて、事業室からの運営に関する報告をしています。	職員は、利用者が笑顔で穏やかな暮らしが継続できるよう、業務や会議で意見や提案を述べ業務改善に生かしている。管理者は、職員に休みを勧めるなど、居心地の良い職場環境に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のストレスや疲労の要因に気を配り、気分転換してもらっている。資格取得後は資格手当が支給され向上心を持って働けるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の年間計画を立て、職員の段階に応じてなるべく多くの職員が受講出来るようにしている。新人職員に対しては、ケア指導マニュアルを作り、丁寧な指導を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央区グループホーム協議会主催のスタッフ研修に定期的に参加し、情報交換の場にもなっています。(今はコロナで開催されていません。)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問やご家族との面談で生活状況を把握し、要望等に耳を傾け、安心して頂ける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の不安や要望等わからない事があれば、いつでもお話を伺い安心して頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人や家族の思い、状態を確認し、必要なサービスにつながるようにケアプランを作成している。またカンファレンス、モニタリングも定期的に行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とゆっくり関わる事、ご本人の意思確認を大切に自己決定、自立した生活が送れるように支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々のくらしの出来事や気づき等をお便りでお知らせしています。コロナ前は一緒に行事に参加してもらう事で楽しみを共有していました。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との写真を飾ったり、定期的にご家族と電話でお話して関係が続く様努めています。	ユニット内で夏祭りを開催し、利用者は職員手作りの神輿を囲んで、とうきびや枝豆、西瓜、焼きそば、たこ焼き等を食し、ヨーヨー釣りや輪投げ、射的を楽しんでおり、昔ながらの風習を大切にした支援に努めている。個別に馴染みの食事処に同行支援することを予定している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の関係性を把握し、トラブルがあったときには、嫌な気分が最小限になるように、職員が調整役になり支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為退所された方へお見舞いに行き、関わりをもつようにしています。退居時は各関係機関とも連携を取り関係が続く様に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人や家族の希望、要望の把握に努め、実現に向けてアセスメントを重視し訴えが少ない方でも行動等から考えられる思いをくみ取りケアにあたっています。	利用者の意向は、会話やふとした動き、家族の情報をもとに職員間で真意を紐解いている。二者択一などで自己決定を大事にし、遠出を希望する利用者には、周辺を散歩してその思いに近づけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等を振り返り、ご家族からの情報を必要に応じて収集しケアに活かせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活リズムを職員が常に把握している様に心がけています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員だけでなく、家族の意向も聴き、入居者主体の介護計画を作成している。アセスメントを含め、職員全員で意見交換、モニタリング、カンファレンスを行なっています。	ケアプランは、利用者や家族の生活への思いや、利用者の得意分野を踏まえた支援目標を設定している。モニタリングやアセスメントに加え、会議で情報や意見交換を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき、行なったケアの記録や結果を生活記録に残している他、食事、水分量、排泄等身体的状況および、暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院等柔軟に対応し、満足していただけるよう努力しています。調剤薬局による居宅療養管理指導、栄養士による栄養管理指導を受けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入しており、以前はバザーへの参加やボランティアに来ていただきました。コロナ感染拡大後は資源ごみの提供や事業所前のゴミ拾いなどへの参加をしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の他、本人のいままでの係りつけ医へ受診している。協力病院からは月2回の訪問診察をうけています。	利用者は、入居以前からのかかりつけ医や月2回の訪問診療を受けるなど様々だが、いずれも主治医に情報提供を行っている。週1回訪問看護師の健康観察もあり、適切な健康管理が行われている。他科受診は、家族と協力して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週1回の訪問を受けており入居者の状態把握や健康管理をおこなっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、家族とも回復状況を話し、情報交換を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に書面にて重度化した場合の事業所が対応しえる最大のケアについて説明しています。また重度化した場合でも協力機関と連携し御本人や家族にとってよい方法の話し合いをしています。	重度化や看取りに向けた方針を書面で説明し、同意を得ている。事業所を終の住処と考えている利用者や家族が数名おり、状態急変時は医療従事者や家族と情報を共有し、最終ケアプランに沿って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内での研修を受け実践を身に付ける事で救急時には対応出来る様に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法定年2回の防火訓練を全職員が行い毎日、防火点検表に基づき点検し、火災を出さないように心掛けています。地域との非常災害時用の緊急連絡網を作成し災害時の連携を図っています。	元消防士である法人職員の指導の下、利用者と一緒に夜間想定自然災害や火災発生時の避難訓練を行っている。表出した課題は、次回の訓練で改善できるよう努めている。毎日、防災点検を行い意識を高めている。	土砂災害危険区域でもあり、地域との協力体制の再構築、火災を含め自然災害時の避難場所の確認と家族への周知、入浴時などケア場面での対処法等、さらなる防災減災に向けての取り組みに期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心掛けたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めています。	職員は利用者の特性を理解し、全てにおいて利用者の意思を尊重した支援に取り組んでいる。業務上や接遇研修で正しい理解に繋げ、伝達時は固有名詞を使わず、特に入浴や排泄、更衣時は、羞恥心に配慮するなど実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活(洋服選び、食べ物、飲み物の希望など)で、入居者に合わせて、声掛けをし、些細なことでも、本人が決める場面をつくっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の気分や、体調等を把握したうえで、その人らしい生活が出来ているか、変わったことがないか、どうしたいのか、などを理解して日々生活していただけるよう努力しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一回の訪問理容を利用してカットしてもらい日常的に身だしなみには気を配りいつまでもおしゃれを忘れないように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けや、テーブル拭き、もやしのひげ取り等していただくことにより、入居者とコミュニケーションをとり、食事に対する雰囲気づくりに役立っています。	秋の味覚弁当や敬老の日の祝い膳など、月1回のお弁当の日を利用者は楽しみにしている。誕生日は、ちらし寿司と鮭の塩焼き、さつまいもの甘煮、ケーキと紅茶等でお祝いをし、時には要望のピザや行事用にサンドイッチなど出前等を取り目先を変えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた栄養バランスの良い食事を提供しています。水分は毎食のほかに、ティータイム、おやつ定期的に水分を摂って頂き、水分量も記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをしています。自分で出来る方は、声かけ、見守りをし、口腔内の、清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、本人の生活リズムに添ってトイレに誘導し排泄出来るようにしています。	自力でトイレに向かう利用者やベッド上での支援などもあるが、排泄チェック表を参考に「手を洗いに行きましょうか」など声かけをしてトイレへ誘導している。家族から衛生用品の使用申し出があるときは、職員間で検討し、ぎりぎりまで現状維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を付けて便秘にならないよう、薬剤師、看護師、医師との連携で行なっている。(水分量・運動・薬剤等)職員で情報を共有し、水分量、食事量等にも気をつけています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒む人に対しては快く入っていただけるように、声かけや時間、対応の工夫に努めています。また楽しんで入浴して頂けるように、数種類の入浴剤をご用意しています。	毎日入浴できる態勢だが、同性介助や湯加減などの要望を取り入れ週2回を基本として支援している。1人入浴の見守り、状態により足湯にシャワー浴もあるが、利用者の出来ないところを手助けしている。入浴時は身体状況の確認や要望、歌、本音が聴ける場面になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活のペースで、自由に休息していただいています。一人ひとりの生活リズムを把握し、安定した一日を過ごせるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と共に薬の変更や身体の情報共有しています。また薬の変更や臨時薬は、申し送りノートで情報を共有しています。体調に変化があった場合は主治医と連携をとっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意な事を知り意欲を引き出し、役割を持った生活や得意な絵画・パズル・塗り絵等して頂ける様に支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は外出できない状況の為、支援できていません。	外出も自粛しているが、近所の桜を窓から眺めたり実際に見物して季節を感じている。外来受診も外気に触れる機会となっている。今後は感染症状況に応じ、コロナ禍以前の外出支援ができるよう職員間で検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の現金の取り扱いはありませんが買い物等のお手伝いはしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人にいつでも電話できるようにしています。電話がかかってきた時は子機を使用し、居室でゆっくり話せるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り物(雛人形や、五月人形)等を飾りアットホームな雰囲気が出るよう工夫している。また室内の温度調整には気をつけています。	事業所全体がゆとりある空間になっており、利用者が快適に過ごせる環境作りに努めている。利用者は、リビングでもやしのひげ取り、算盤、折り紙、桜の花びらなど季節飾り製作等に力を発揮している。誕生会や季節行事のお祝いは、笑顔が増す機会となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓のほかに、ソファを配置し、他入居者と話しながら、ゆっくりとテレビが観れるようにしている。又、離れたところに、椅子とテーブルを配置し、一人で過ごす場所も作り、利用されています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やタンスなど、使い慣れた物を持って来ていただいています。写真や趣味の物を飾ったり、居室で好きなテレビを観ている方もいます。	居室にはクローゼットを設置している。テーブルや椅子、テレビ、仏壇等を持ち込み、さらにレクでの作品や誕生会の写真、また、写真集等を手元に置いている。起床時間も柔軟に対応するなど利用者のペースで過ごせる環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのわかる力を見極め、字の大きな日めくりを掛けたり、状況に合わせて環境整備をし、本人が混乱しないで生活できるようにしています。		